

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	キリスト教人間学		
開講年度・学期	2021年度 秋学期		
開講曜日・時限	水曜日 6時限		
単位数	2単位		
担当教員	寺尾寿芳、鈴木伸国、原敬子、佐藤啓介		
講義概要	<p>上智大学の教育理念を伝える科目。 特に、グリーフケア研究所の講義科目としてのキリスト教人間学では、キリスト教のスピリチュアリティと、その様々な展開また歴史社会とのかかわりについて理解を深める。そこから近代の人間の特徴と課題を明確化すると共に、そこに求められるスピリチュアルケアを考察する。 本講義は特にキリスト教の理論と実際という両側面に焦点を当てた内容で構成されている。つまり、キリスト教という宗教に内包される抽象的、論理的思考方法を踏まえたうえで、多様なかたちで人の現実と関係し、人の癒しと救済を志向しているかが概観される。まず喫緊の課題である環境問題を取り上げ、現実社会においてキリスト教が果たしている重要性をふまえたうえで、こうした活動を支えるキリスト教の基礎的特徴を理解し、さらに哲学的な視点も導入してグリーフケアに不可欠な人間理解を深めていく。最後に宗教文化の諸事象と交叉する形で、キリスト教の人間観が示す展開可能性を探求する。なお、諸宗教のスピリチュアリティの詳細については、講義科目「宗教学」「死生学」において言及する。</p>		
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) さまざまな学びや実践の基礎になる、キリスト教人間学が提供する根源的な批判力について理解する。</li> <li>2) キリスト教におけるスピリチュアリティと、西欧の文化・学問・思想におけるその影響について理解する。</li> <li>3) キリスト教のスピリチュアリティが養うケアの本質についての議論を理解する。</li> </ol>		
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 毎回授業後に提出するリアクションペーパー 30%</li> <li>2) 各自の経験に基づく、ディスカッション・質疑への貢献 10%</li> <li>3) 学期末レポート60%</li> </ol>		
授業計画	回	担当	内容
	第1回 (9/29)	原	(1) ユダヤーキリスト教の人間観とカテキズム
	第2回 (10/6)	原	(2) キリスト教とは何か「信：キリスト教の信仰宣言」
	第3回 (10/13)	原	(3) キリスト教とは何か「交：聖なる典礼」
	第4回 (10/20)	原	(4) キリスト教とは何か「結：キリストとの一致を生きる、キリスト教倫理」
	第5回 (10/27)	原	(5) キリスト教とは何か「祈：キリスト者の祈り、霊性」
	第6回 (11/10)	佐藤	キリスト教における生と死
	第7回 (11/17)	佐藤	キリスト教における死者
	第8回 (11/24)	鈴木	グリーフケアにおける「たましい」
	第9回 (12/1)	鈴木	グリーフケアにおける「人格」
	第10回 (12/8)	鈴木	グリーフケアにおける「こころ」
	第11回 (12/15)	寺尾	祈る——この世を生きる人間 (1)
	第12回 (12/22)	寺尾	歩く——この世を生きる人間 (2)
	第13回 (1/5)	寺尾	坐る——この世を生きる人間 (3)
	第14回 (1/12)	寺尾	臥す——この世を生きる人間 (4)
第15回 (1/19)	寺尾	集う——この世を生きる人間 (5)	
教科書・参考書	<p>参考書：日本カトリック司教協議会『カトリック教会の教え』（カトリック中央協議会、2003年） ISBN:978-4-87750-106-8 岩島忠彦『イエスとその福音』（教友社、2005年） ISBN：978-4-90221-113-9 教皇フランシスコ『ラウダート・シ とともに暮らす家を大切に』（カトリック中央協議会、2016年） ISBN：978-4-87750-199-0</p>		

課程	グリーンケア人材養成課程		
科目名	スピリチュアルケアと芸術		
開講年度・学期	2021年度 秋学期		
開講曜日・時限	土曜日 1・2時限		
単位数	2単位		
担当教員	鶴岡賀雄、森裕子、中村圭志		
講義概要	<p>日本のスピリチュアルケア研究において最も新しい領域。 音楽・文芸・美術また身体性を含む芸術的感性とスピリチュアリティの関わりについて学ぶ。授業では、具体的な音楽・文芸・美術・舞踊その他の芸術表現を通してケアについての理解を深める。</p> <p>随時ディスカッションの時間を設け、社会人受講生の経験を分かちあい、授業内容の深化を図ると共に、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持っているかを検討する。</p>		
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) スピリチュアリティと芸術性の関係を理解する。</li> <li>2) スピリチュアルケアにおける芸術の役割をその可能性を理解する。</li> <li>3) スピリチュアルケア提供者自身の芸術性の養いについて実践的に理解する。</li> </ol>		
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 毎回授業後に提出するリアクションペーパー 30%</li> <li>2) 各自の経験に基づく、ディスカッション・質疑への貢献 20%</li> <li>3) 学期末レポート 50%</li> </ol>		
授業計画	回	担当	内容
	第1回 (10/2)	中村	心の変容の図像学 禅画「十牛図」を参考に
	第2回 (10/16)	中村	心の変容の図像学 ユング『心理学と錬金術』を参考に
	第3回 (10/30)	中村	心の変容の図像学 えほんの世界
	第4回 (11/6)	鶴岡	スピリチュアルケアと文芸 (1) : 「言葉」を交わす
	第5回 (11/20)	鶴岡	スピリチュアルケアと文芸 (2) : 「物語」を生きる
	第6回 (12/4)	鶴岡	スピリチュアルケアと文芸 (3) : 「詩歌」を詠う
	第7回 (12/18)	森	1) 古代における人と音楽 2) 現代の音楽療法実践の基にある音楽観
	第8回 (1/29)	森	3) 分断を超えて人と人をつなぐ音楽と、その実践の基にある音楽観 4) 音楽の人間性の回復に寄与する可能性に関するキリスト教的一考察
教科書・参考書			

課程	グリーンケア人材養成課程		
科目名	スピリチュアルケア原論		
開講年度・学期	2021年度 秋学期		
開講曜日・時限	水曜日 6時限		
単位数	2単位		
担当教員	島園進、伊藤高章、葛西賢太、秋山正子、佐久間庸和、高橋祥友		
講義概要	<p>グリーンケアが、人生に不可避な様々な喪失体験に伴う心の反応の理解とケアの学問的実践的領域であるのに対し、スピリチュアルケアは、すべての人に本来備わっているスピリチュアリティとその働きに注目する。最終学期の科目として、これまでの学びを再統合する機会を提供する。スピリチュアルケア提供者とケア対象者との関係性への総合的理解を目指す。</p> <p>欧米の近年の研究は、スピリチュアリティを：</p> <p>「スピリチュアリティとは人間性の力動的で本質的な一側面であり、人は、それを通して、究極的な意味・目的・超越を探し求め、それを通して、自己・家族・他者・コミュニティ・社会・自然・大切にすべきもの・神聖なものとの関係を経験する。スピリチュアリティは、信仰・価値観・伝統・実践を通して表出される。」</p> <p>(Puchalski, Vitillo, Hull et al. International Conference on Global Integrating Spirituality into Health, 2013)</p> <p>と定義するが、日本文化におけるこの妥当性も含め、思想史的・理論的・実践的に検討する。随時ディスカッションの時間を設け、社会人受講生の経験を分かちあい、授業内容の深化を図ると共に、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持っているかを検討する。</p>		
授業目標	<p>1) スピリチュアルケアの諸概念を理解する。</p> <p>2) スピリチュアルケア提供者の姿勢と課題を理解する。</p>		
評価	<p>1) 毎回授業後に提出するリアクションペーパー 30%</p> <p>2) 各自の経験に基づく、ディスカッション・質疑への貢献 20%</p> <p>3) 学期末試験 50%</p>		
授業計画	回	担当	内容
	第1回 (9/29)	島園	スピリチュアルケアの背景 (1)
	第2回 (10/6)	島園	スピリチュアルケアの背景 (2)
	第3回 (10/13)	島園/秋山	スピリチュアルケアの背景 (3)
	第4回 (10/20)	島園/秋山	スピリチュアルケアの背景 (4)
	第5回 (10/27)	島園/佐久間	スピリチュアルケアの背景 (5)
	第6回 (11/10)	島園/佐久間	スピリチュアルケアの背景 (6)
	第7回 (11/17)	島園/高橋	スピリチュアルケアの背景 (7)
	第8回 (11/24)	島園/高橋	スピリチュアルケアの背景 (8)
	第9回 (12/1)	伊藤	スピリチュアルケアの理論 (1)
	第10回 (12/8)	伊藤	スピリチュアルケアの理論 (2)
	第11回 (12/15)	伊藤	スピリチュアルケアの理論 (3)
	第12回 (12/22)	葛西	スピリチュアルケアの位置づけ(1)
	第13回 (1/5)	葛西	スピリチュアルケアの位置づけ(2)
	第14回 (1/12)	葛西	スピリチュアルケアの位置づけ(3)
第15回 (1/19)	葛西	試験	
教科書・参考書	<p>参考書：アーネスト・カーツ『アルコールリクス・アノニマスの歴史』（明石書店） ISBN：978-4-7503-5076-9</p>		

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	死生学		
開講年度・学期	2021年度 秋学期		
開講曜日・時限	土曜日 3・4時限		
単位数	2単位		
担当教員	島菌進、栗津賢太、佐藤壮広、佐藤啓介		
講義概要	<p>さまざまな死生観を学ぶとともに、効率や実績を重視する現代社会の支配的価値観では捉えきれない諸問題を死生学的課題と理解し、より人間の本質に接近した立場から取り組みます。随時ディスカッションの時間を設け、社会人受講生の経験を分かちあい、授業内容の深化を図ると共に、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持っているかを検討する。</p>		
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 死生学とは何かを理解する。</li> <li>2) 死生学とスピリチュアリティの関係を理解する。</li> <li>3) 死生観の変化を理解する。</li> <li>4) 日本人の死生観を理解する。</li> </ol>		
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 毎回授業後に提出するリアクションペーパー 30%</li> <li>2) 各自の経験に基づく、ディスカッション・質疑への貢献 20%</li> <li>3) 学期末レポート 50%</li> </ol>		
授業計画	回	担当	内容
	第1回 (10/2)	島菌	死生学とは
	第2回 (10/16)	島菌	死生学とスピリチュアリティ
	第3回 (10/30)	栗津	英国における死生観の変容（戦死者追悼儀礼の発生とスピリチュアリズム）
	第4回 (11/6)	栗津	近代日本における死生観の変容（災害犠牲者・戦死者追悼儀礼・遺骨収集活動の展開）
	第5回 (11/20)	佐藤壮広	音楽文化にみる死生観（グリーフケアと音楽、歌）
	第6回 (12/4)	佐藤啓介	「よき生」をめぐる言説の構図
	第7回 (12/18)	佐藤啓介	「よき死」をめぐる言説の構図
	第8回 (1/29)	島菌	現代日本における死生観／まとめ
教科書・参考書	<p>参考書：『ともに悲嘆を生きる』（島菌進）朝日新聞出版 ISBN：978-4-02-263082-7  『死生学1 死生学とは何か』（島菌進・竹内整一）東京大学出版会  ISBN：978-4-13-014121-5  『日本人の死生観を読む』（島菌進）朝日新聞出版 ISBN：978-4-02-259985-8  『記憶と追悼の宗教社会学—戦没者祭祀の成立と変容—』（栗津賢太）北海道大学出版会  ISBN：978-4-8329-6826-4</p>		

課程	資格認定課程		
科目名	先端医療・緩和医療		
開講年度・学期	2021年度 秋学期		
開講曜日・時限	水曜日 6時限		
単位数	2単位		
担当教員	水嶋章郎（コーディネーター）、渡邊心、笹井啓資、吉川征一郎、井関雅子、加藤俊介、奥出有香子、阿瀬寛幸、奥野滋子、高木辰哉、田嶋美幸、高橋啓示、藤村純也、北出真理		
講義概要	我が国の先端医療・緩和医療の現状を概説する		
授業目標	スピリチュアルケア／グリーフケア担当者として医療現場でチームの一員として働く際に心得ておくべき、今日の医療のレベルをわきまえておく		
評価	出席およびリアクションペーパー提出状況によって評価する ※状況によりレポート提出を課すことがある		
授業計画	回	担当	内容
	第1回 (9/29)	水嶋	我が国の緩和医療の現況
	第2回 (10/6)	渡邊	救急医療
	第3回 (10/13)	加藤	薬物療法
	第4回 (10/20)	笹井	放射線治療
	第5回 (10/27)	吉川	手術療法、低侵襲手術、消化器癌
	第6回 (11/10)	井関	がん患者の経験する疼痛と治療法
	第7回 (11/17)	奥出	がん看護、リンパマッサージ
	第8回 (11/24)	阿瀬	リハビリテーションの魔法
	第9回 (12/1)	奥野	在宅医療、緩和医療「終末期の喪失の連続から得られたもの」
	第10回 (12/8)	高木	整形外科、がんの運動器診療
	第11回 (12/15)	田嶋	緩和に使う薬の知識
	第12回 (12/22)	高橋	緩和ケアと臨床心理学
	第13回 (1/5)	藤村	小児科医療の特性と小児がん
	第14回 (1/12)	北出	妊孕性温存療法
第15回 (1/19)	水嶋	総括、緩和医療の将来	
教科書・参考書	参考書：『患者さんと家族のための がんの痛み治療ガイド増補版（2017）』 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン統括委員会（編集）ISBN：978-4-307-10186-8		